

令和4年11月11日

保護者のみなさま

豊能町立東能勢中学校
校長 小田 恵美子

令和4（2022）年度 全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月19日（火）に実施された全国学力・学習状況調査の結果を基に、本校での分析内容を報告いたします。

尚、この調査結果は、学力や学習状況の一部であり、本校は調査標本数が少ないので、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意する必要があります。しかし、数字等から見えてくることを共有し傾向をつかむことによって、成果と課題を今後の教育活動にいかしていきたいと思っています。

尚、全国学力・学習状況調査の問題等については国立教育性格研究所のホームページで、本町全体の分析結果については町のホームページで公表されていますので、それぞれご覧ください。

1. 調査概要

○令和4年4月19日（火）に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。

＊4月19日に実施した生徒数は国・公・私立の合計928,509人

○中学3年生を対象に、教科に関する調査は、国語（14問）・数学（14問）・理科（21問）の3教科で各50分間の調査であった。

○生徒質問紙は基本的な生活習慣、学習習慣など11項目75問あり、学校の指導方法や教育環境を問う学校質問紙は15項目80問に加え、新型コロナウイルス感染症の影響を問う質問が23問あった。

2. 調査結果

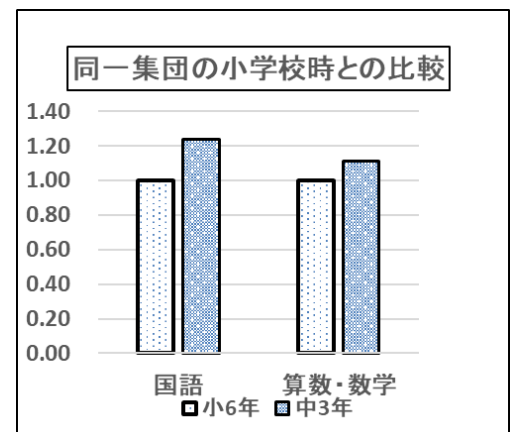
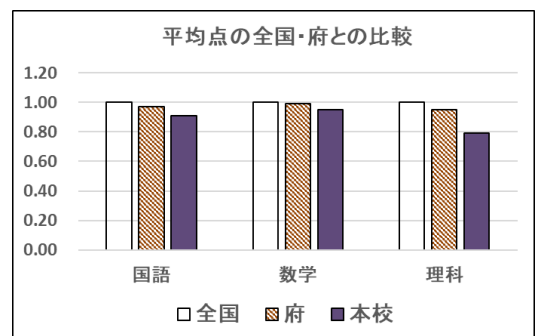
【学力調査結果の概要】

右のグラフは、調査教科の平均正答率を全国を1として大阪府と本校の割合を表したものである。残念ながら、どの教科においても、全国、大阪府より下回っている。理科は全国平均正答率より、0.21ポイントも差があった。

各教科の詳細は以下にまとめるが、生徒質問紙の「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」の項目では「各教科の勉強は好きか」の質問の肯定的回答（「好き」「どちらかと言えば好き」）は国語58.8%（府60.0 国61.9）、数学76.5%（府58.9 国58.1）、理科41.2%（府62.9 国66.4）となっている。また、「各教科の勉強は大切だと思うか」の質問の「そう思う」と回答した生徒は、国語52.9%（府61.1 国63.1）、数学70.6%（府49.9 国52.1）、理科35.3%（府35.7 国36.9）であった。興味、関心の度合いと正答率の比例的な関係がうかがえる。「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいか」の問いでは、「就きたい」が17.6%（府8.8 国8.0）、と比較的高いが、「就きたくない」も58.8%（府49.0 国48.8）あり、興味の有無がはっきり分かれているようである。

「授業内容はよくわかるか」の問いの肯定的回答については、国語88.2%（府81.5 国81.2）、数学94.1%（府78.0 国76.2）、理科76.5%（府74.6 国75.2）と、どの教科も府や国を上回っている。

対象の生徒が平成31年の小学6年生の時に行われた同調査の結果を1として、正答率がどう変わったか比較すると右のグラフになる。当時は理科の調査はなかった。国語は0.24ポイント、算数は0.11ポイント上昇している。生徒の成長とともに学力面も確実に伸長したと考えられる。それは、本校中学3年生の日頃の授業に向かう姿勢にも表れている。



【各教科の分析】

国 語

漢字の知識・技能はあるが、「考えを表現の工夫をして話すこと」に課題が見られる

(1) 全体概要

今年度は、全国平均正答率（69％）や大阪府の平均正答率（67％）を下回っている状態（63％）である。

【知識及び技能】の面では、文脈に即して漢字を正しく書くことができていた（100％・87.5％）。「我が国の言語文化に関する事項」では漢字の行書の読みやすい書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解することはできているが、行書の特徴を理解することに課題が見られた。

【思考力・判断力・表現力】の面では「話すこと・聞くこと」において課題が多く見られた。「論理の展開」に注意することや「自分の考えを表現の工夫をして話す」ことに特に課題がある。「日頃の話し合い体験」や「スピーチ」等、「話す」経験とともに、「記述する」経験によって力を伸ばしていきたい。

(2) 正答率による分析

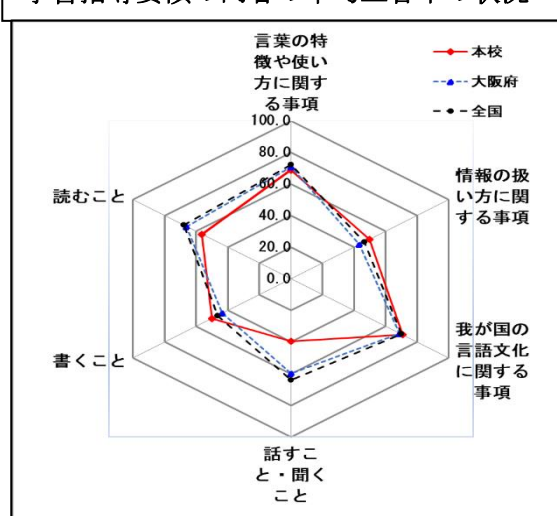
①正答率が全国と比較して 約 10% 上回っている問題

- 2 二① 文脈に即して漢字を正しく書く「のぞく」…正答率 100% (短答式問題 全国より+17.9%)
- 4 二 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する…正答率 100% (選択式問題 全国より+9.9%)

②正答率が全国と比較して 10%以上 下回っている問題

- 1 一 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する…正答率 62.5% (短答式問題 全国より-12.2%)
- 1 二 論理の展開などに注意して聞く…正答率 37.5% (選択式問題 全国より-27.6%)
- 1 三 自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す…正答率 18.8% (記述式問題 全国より-33.0%)
- 3 四 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する…正答率 56.3% (記述式問題 全国より-17.5%)
- 4 一 行書の特徴を理解する…正答率 25% (選択式問題 全国より-14.4%)

学習指導要領の内容の平均正答率の状況



数 学

数式やデータの活用については高い正答率だが、関数の分野に課題が見られる

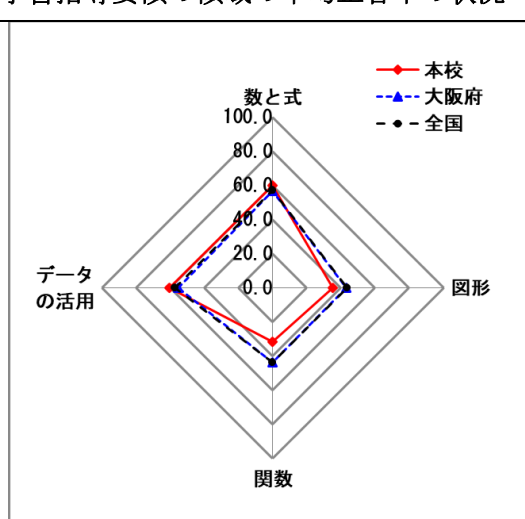
(1) 全体概要

今年度は、全国平均正答率（51.4％）や大阪府の平均正答率（51％）と比較すると、やや下回る状況（49％）である。領域別にみると、「数と式」「データの活用」の分野に関しては、全国、大阪府より正答率は高く、「図形」「関数」の分野に関しては、全国、府より正答率は低い。特に、「関数」の分野は全国、府の正答率と比較して、10%以上低くなった。

評価の観点別では、「知識・技能」については、全国、府より正答率は約4%低い結果となった。「思考・判断・表現」については、全国、府の正答率とほぼ変わらない。

また、生徒質問紙の「数学の授業の内容はよく分かりますか」や「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問項目については、肯定的な回答の割合は全国と比較しても高い。しかし、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」、「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」、「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の質問項目については、肯定的な回答の割合は全国と比較して低い。以上のことから、数学への興味・関心やその必要性を

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



は、肯定的な回答の割合は全国と比較して低い。以上のことから、数学への興味・関心やその必要性を

感じている生徒は多いが、問題を解決するための知識の定着に課題がみられ、実生活と結びついていないと分析できる。このことは、下記の「(2) 正答率による分析」からも読み取ることができる。

引き続き、基礎・基本についての授業を丁寧に行い、反復学習を心掛けたい。また、家庭学習にも力を入れる必要があるだろう。

(2) 正答率による分析

①正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

- 1 42を素因数分解する…正答率 62.5% (短答式問題 全国より+10.3%)
 7(1) コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する…正答率 62.5% (記述式問題 全国より+18.5%)

②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

- 3 ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ…正答率 31.3% (選択式問題 全国より-13.6%)
 4 変化の割合が2である1次関数の関係を表した表を選ぶ…正答率 25.0% (選択式問題 全国より-12.9%)
 8(1) 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く…正答率 31.3% (短答式問題 全国より-23.3%)
 9(2) $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。…正答率 0.0% (記述式問題 全国より-12.5%)

理科

選択式の調査は回答できているが、記述式・短答式の無回答率が高い

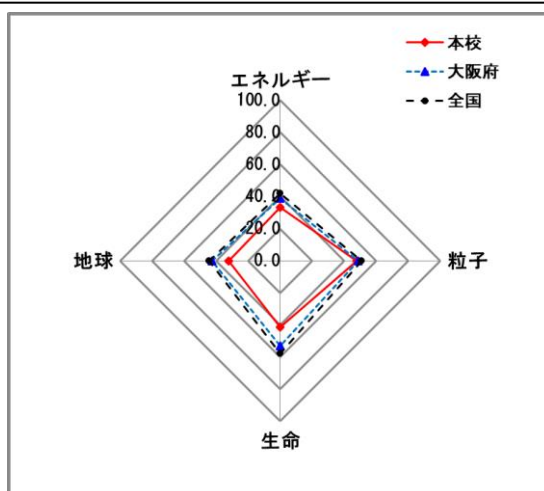
(1) 全体概要

今年度は、全国平均正答率(49.3%)や大阪府の平均正答率(47%)を下回っている状態(39%)である。正答率が全国の平均正答率と比較して上回っている問題は、4(1)、7(1)の2問のみとなっている。

領域別に見ると、「粒子」では、ほかの領域と比べ、全国・大阪府の平均正答率と比較すると差が小さい(-3.4%)。このことより、「粒子」の領域では、日頃から身近な現象と関連付けて学習していると考えられる。調査全体の無回答率に注目すると、選択式の無回答率は0%であったが、記述式・短答式では、12.5%~43.8%と無回答率が高い。そのことより、記述式の問いが多くあった「生命」の領域では、地域柄、身近な現象と関連付けて学習してきたにもかかわらず、4つの領域の中での正答率が、全国平均正答率を大きく下回った。(-16.6%)

今後の対策として、知識及び技能の学習場面を繰り返し設定する。また、実験を通じて得られた結果から考察し、話し合い活動を通じて確認する学習活動を充実することが大切であると考えられる。

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



(2) 正答率による分析

①正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

なし

②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

- 2(1) 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する…正答率 43.8% (選択式問題 全国より-10.4%)
 2(2) 気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する…正答率 25.0% (選択式問題 全国より-15.8%)
 4(2) 脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する…正答率 50.0% (選択式問題 全国より-15.6%)
 6(1) 玄武岩の露頭で化石の観察が買おうか判断し、その理由を選択する…正答率 37.5% (選択式問題 全国より-10.5%)

- 8 (2) 予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する…正答率 18.8%
(記述式問題 全国より-12.5%)

③正答率が全国と比較して 20%以上 下回っている問題

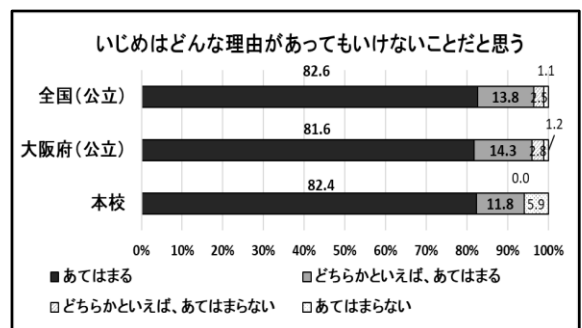
- 5 (2) 「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する…正答率 18.8% (選択式問題 全国より-26.2%)
- 6 (2) 陸上の B 地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する…正答率 37.5% (選択式問題 全国より-22.8%)
- 8 (1) アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する…正答率 25.0% (記述式問題 全国より-30.2%)

【生徒質問紙の分析】

府や国より肯定的回答が高かった項目

人が困っているときには助けたい、人の役に立ちたいと思っている生徒が多い

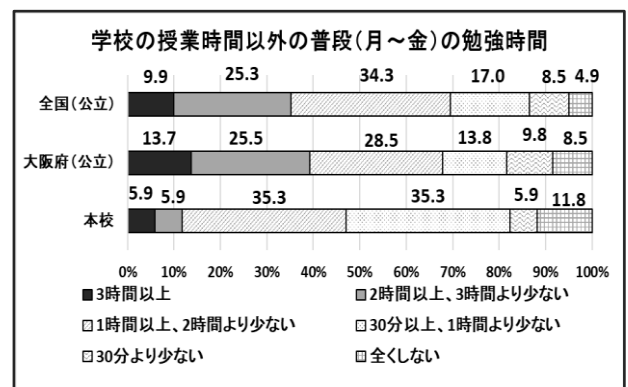
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等の項目の質問で「あてはまる」の回答率が高かったのは、「人が困っているときは、進んで助けているか」で 47.1% (府 38.7 国 40.6)、「人の役に立つ人間になりたいか」で 82.4% (府 72.7 国 73.5) であった。昨年度よりさらに上昇している。以前から課題であった「いじめは、どんな理由があってもいけない」についても 82.4% (府 81.6 国 82.6) と初めて府を上回った。



府や国より否定的回答が多く課題がみられる項目

人と違う意見を持つことに抵抗感がある 学校外での勉強時間や読書量が少ない

町全体の課題にもなっている「自分にはよいところがある」という質問については、積極的回答(「あてはまる」)が、23.5%と昨年度(21.7)より少し上がったものの、府(34.3)や全国(36.0)より低い。「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」の質問では否定的回答が 35.3% (府 25.3 国 22.9) と、人と違う意見をもつことや、自分自身への自信をもつことに消極的である。また、学習習慣、学習環境についての項目で「学校の授業以外に 1 日当たりどれくらいの時間、勉強するか」、「土日など学校が休みの日に 1 日当たりどれくらいの時間、勉強するか」に対して、1 時間未満が平日 53% (府 32.1 国 30.4)、休日 53% (府 41.7 国 29.2) であった。「まったくしない」と答えているのは 11.8% (府 8.5 国 4.9) もあり、家庭学習の時間がはるかに短い。一方で町主催のまなび舎事業や校内の自習教室や補習の出席状況は良い。ひとりで勉強に向かう態度や家庭での学習習慣が身につけていないようである。



3. 今後に向けて

自ら計画を立て意志を持って学ぶ力、毎日の家庭学習の習慣、多様な考えを取り入れる柔軟性を育てる取組を、小中一貫教育校になった利点をいかして、系統的かつ継続的に、粘り強く行っていくことが大切である。今年度はそれを課題にして、小中合同研究を行っている。関心・意欲を高める授業づくりとともに、積極的に学習に向かう態度を育てることに焦点を当て、小学校と連携して、宿題などの課題の設定、家庭学習の指南、自主学習の方法など、9 か年の成長を見越した具体的な取組を積み上げていかなければならない。